

(授業報告ノート)

模擬結婚式の企画運営を通じた学びの実践 —にちぶんブライダルプロジェクト 2025—

神村正巳¹

1. はじめに

本稿は、2025年度に実施した「にちぶんブライダルプロジェクト 2025」の取組みに関する活動報告である。

「にちぶんブライダルプロジェクト」(以下「本プロジェクト」という。)は、甲南女子大学文学部日本語日本文化学科におけるプロジェクト型学習プログラムの一つであり、課題解決型学習(PBL)の一環として行われている。この活動は、授業科目とは別に学生のみで編成したプロジェクトチームが担当教員のサポートを受けつつ主体的に取り組む、その成果を様々な機会に発表することで実践力を育成することを目的としている。

本プロジェクトは、ブライダルの式典の場面で求められるホスピタリティや議事進行のためのアナウンス能力の学びを深め、模擬結婚式の企画・運営を通じた参加・体験を得ることが可能である。

このため学生は、新郎新婦、立会人、ディレクター、司会進行、サービス役などの様々な役割を担い、疑似体験による学びを経験知と重ね合わせ、自身の成長につなげることができる。

本プロジェクトは2021年度に開始され、2025年度で5回目の開催となる。参加者の中には複数回の参加となる学生もおり、経験を積んだ上級生が下級生に助言を行うなど、実施回数を重ねるごとに知識やスキルが伝承されている様子も見受けられる。参加学生へのアンケートからも本プロジェクトの参加を通じ、ブライダルやホスピタリティ、アナウンスなどへの理解をさらに深めたことや学年を超えた学生間の協力活動による大きな達成感を得たことがうかがえる。

2. 2025年度プロジェクトの概要

(1) プロジェクトの経緯

本プロジェクトが始まった2021年度当初は模擬結婚式をスタジオ内で実施し、その映像をオープンキャンパス等で紹介するものであった。2022年度からは模

¹ 文学部日本語日本文化学科

擬結婚式をオープンキャンパス当日に来場者が列席のもとで実施してきた。さらに2023年度は学生の企画と運営面での実践力をさらに高めるための演出上の工夫や新たに学外企業らの協力も得た²。

2024年度は、参加メンバーの約40%が1年生であることと上級生の中には過去に本プロジェクトへの参加経験を持つものが9人いたことから、これまでの経験知をメンバー全体で共有しつつ、企画や演出を向上させることが可能であった。

(2) 全体の流れ

甲南女子大学
にちぶんブライダル・プロジェクト
2025
模擬結婚式 運営メンバー募集！

日本語日本文化学科
「にちぶんブライダル・プロジェクト」

本プロジェクトは、模擬結婚式の運営プロジェクトの体験を通じ、ブライダルのホスピタリティについて実践的に学習します。
昨年に続き、今年もさらにパワーアップして実施します！
8月3日（日）のオープンキャンパスで模擬結婚式を告知します！
10月の学園祭にて模擬結婚式を開催する予定です！

説明会の日時と場所：5月7日（木）、8日（木）
いずれも12:50~13:15 / 日文コモンルーム

申込み期間：5月8日（火）～5月14日（月）16:00
申込み場所：日文コモンルーム

※ 5月第3週から活動を開始します。詳細は説明会の際にご説明します。
※ 5月、6月のお休みの中心にミーティング、本番前にリハーサルを行います。
※ 3年生が主体に活動しますが、1、2、4年生の参加も大歓迎します。
※ 特別学習活動ですので、参加に際してアルバイト料や旅費は出ません。
※ 参加者のうち要件を満たした場合、学科独自の認定証が授与されます。

お問合せ先：ホスピタリティ入門担当 神村正巳 m.kamimura@konan-wu.ac.jp
お申込み先：コモンルーム nichibun@konan-wu.ac.jp

写真1 2025年度 模擬結婚式 メンバー募集案内

況であった。学年の内訳は、1年生3人、2年生13人、3年生5人であり、深刻な人手不足であった。しかし、昨年と同様に、参加者の中には高校生の時に本学のオープンキャンパスでこの模擬結婚式に興味を持ったという学生達も含まれていた。さらに、昨年の経験者が10名いたことから、メンバー間の意識も高く、それらの学生の経験をプロジェクトメンバー全体で共有していくことができた。

また、プロジェクトの運営に際し、昨年まで中心的に担当していた教員2名が不在となったことから、新たに担当となった神村が学生と連携・協力しながら

まず、年度当初の各学年オリエンテーションにおいて今年度のプロジェクトの参加者を募り、5月7日・8日に説明会を実施し、(写真1)その後、5月14日まで参加希望者の申込みを受付け、登録を行なった。以降、5月中旬から実施前日までを準備期間とし、8月3日の夏季オープンキャンパス当日の午前と午後の2回、模擬結婚式を実施した。さらに9月のオープンキャンパスにおいて模擬結婚式の様子を編集した動画とともに参加学生による発表と展示を行なった。

2024年度のプロジェクトには37人の学生が参加し、参加学生の学年の内訳は、1年生15人、2年生7人、3年生13人、4年生2人であった。2025年度は総勢21人の参加となり昨年に比べ16人少ない状況であった。

² 谷口重徳、松笠裕之、津田なおみ、2024年、「(授襲報告ノート)模擬結婚式の企画運営を通じた学びの実践～にちぶんブライダルプロジェクト 2023～」 「甲南国文」71, 甲南女子大学国文学会、pp. 192(1)-185 (8)

学内外の企業等との調整を行った。模擬結婚式の進行については、近隣の大学において授業で結婚式を実践して学生を指導している経験がある兵庫大学現代ビジネス学部教授 石川夕起子先生の助言を受けた。

(3) 関係部署との調整

2024年度は全日本ブライダル協会の協力を得ていたが、2025年度は予算削減のため、これを断念せざるを得なかった。したがって、石川先生より適切な提携先を紹介され、貸衣装やヘアメイク等の準備を進めたが、この調整のために大幅な時間を費やすこととなり、全体のスケジュールに影響し、リハーサル等に支障があったことは否めない。

学内関係部署との調整については、模擬結婚式をオープンキャンパス当日に実施することから入試課との調整を行った。また模擬結婚式の会場として8号館撮影スタジオを使用するためIT・管財課から協力を受けた。さらに、情報発信のため広報課から協力を受けた。そして各種の手続きに際しては日本語日本文化学科コモンルームを通じ、文学部・国際学部事務課と調整を行った。

3. 模擬結婚式の準備

(1) 準備

年度当初の各学年オリエンテーションで参加学生を募集し、応募のあった21名とコモンルームで会議を開催した。第1回会議：5月14日（水）12：45～13：15／5月15日（木）12：45～13：15として、都合の良いどちらかに参加し、必要な情報伝達が確実に出来るようにした。また、第2回会議：5月20日（火）12：45～13：15／5月21日（水）12：45～13：15に設定し、徐々に役割分担などが決定した。明らかに物理的な人数不足であったため、学生は、事前準備の役割と当日の役割をそれぞれ担当することとした。また、役割の担い手の基本的な考え方は、終始統括して中心的な役割をこなす要職であるプロデューサーは3年生が担当することとした。この基本線を基に、事前準備は、プロデューサー2人、企画・総務8人、広報・記録3人、物品制作7人、音楽3人、台本制作2人の構成とした（兼任者有り）。また、模擬結婚式当時の役割は、新婦1人、新郎1人、立会人1人、司会2人、会場受付・誘導7人、広報2人、音響3人、ディレクター（学生キャプテン）5人、プロデューサー1人の構成とした（兼任者有り）。

昨年と大幅に異なるのは、予算と人員が不足していたため、式の構成を大幅に

見直し、シビルウェディング³方式ではなく、シンプルな人前式へと変更した。これにより、ミニスターの配置をなくし、式そのものの時間短縮と人員配置の変更が可能となった。台本も変更し、学生一人当たりの作業負担が軽減された。挙式で披露される著名な宿泊施設プロデュースの展示物も廃止し、これに代わり学生が作成した装飾品を通路から見える場所に展示するなどの工夫を凝らした。

準備は、全体の定例ミーティングにより進捗状況と情報の共有を行いつつ、担



写真2 ミーティング（学科公式Instagram 2024年5月21日より）

当グループごとに随時ミーティングと準備作業を行なった(写真2)。メンバー間の情報共有には、メールや SNS のグループでの情報共有等を活用した。これまで本プロジェクト準備のためのミーティングや展示物等の制作には主に昼休み時間を充てていた。しかし、人数が少ない中で、参加メンバーの日程調整が難しく、徐々に十分な時間を確保できなくなった。必要に応じて各パートによるミーティングを行っていたが、リハーサルを行うためにはできる限り多くの参加者が集まる必要があり、7月下旬にかけて集中して準備作業とリハーサルを行うことになり、前日に最終リハーサルチェックを行なった。

(2) 演出テーマ

近年の個性化・多様化する花嫁の場面において新郎新婦の意向に沿ったテーマが設定され、それに沿った演出がなされていることを踏まえ、企画担当



写真3 配布用リーフレット

グループによる原案について全体ミーティングで検討した。その結果、2025年度模擬結婚式の本プロジェクトのコンセプトは「Blue Night Wedding ~夜空に誓う二人の未来~」

³ シビルウェディングとは、全日本花嫁協会が提唱する人前式で、結婚式の前に予め役所に婚届届を提出し、その長が発行する瀬届受理証明書を司式者が読み上げ、参列者一同に披露するセレモニーである。一般社団法人全日本花嫁協会HP (<https://ajba-civil.or.jp/?p=214>), 2026年1月25日閲覧。

(写真 3) と決定した。

また、式における音響や照明は、夜を基調とする演出を行なった。深い青でスタジオ内を装飾した。

2022 年度に模擬結婚式をオープンキャンパスに開催するようになってから、毎回何らかの形で来場者がセレモニーに参加できるような演出を行なってきた。2025 年度はフラワーボックスセレモニーを行なった。事前に配布の小物入れを開封し、中にアイテムがある参列者には、新郎新婦の介助を依頼して参加を促す。また、新郎新婚の退場時には、新郎新婦の退場時にビーズを真珠に見立てたパールシャワーでお見送りするため来場者に協力してもらい、スタジオ退出の直前にはバブルシャワー演出を行った。

今年度は会場内で上映するエンディングロール映像を制作し、新郎新婦役学生の幼少期 から現在までを紹介する画像や模擬結婚式の準備の様子、各チームごとの集合画像なども紹介した。さらに会場内にも新郎新婦役の学生を紹介する写真などを掲示した。一連の演出に必要な小道具の制作と合わせて結婚受理証明証、新郎新婦からのメッセージカード、配布用プログラムなども制作した。これらの取組みは、前年度から参加している企画担当メンバーがこれまでの経験を踏まえ、模擬結婚式当日の限られたタイムスケジュールの中でも演出上の効果を発揮できるように工夫されたものである。

(3) 事前学習

学生のブライダルへの理解を深めるため、先述の兵庫大学石川先生に依頼し、外部講師による特別授業（講演会）を6月3日（火）2限にホスピタリティ論Aの授業として実施した。大学教員になる前職はブライダル産業に従事されていた経験を有しており、現在は学内で実際の挙式を希望するカップルを募集し、学生がその運営に従事する授業を仕切っている。ブライダルの基本的な知識のほか、歴史や物品やならわしの由来などについて、丁寧かつ楽しく学生に講義していた。これに関する学生の反応が好評であったことから、本学の模擬結婚式に関するアドバイザーとしてリハーサルに同席いただき、台本の構成やアナウンス面、新郎新婦や司会の立ち振る舞いなどについて、的確にご指導され、学生からの信頼は絶大であった。AV スタジオにおけるリハーサルは、全体の進行を確認する中で、音響や照明の操作も必要になる。文学部の学生にとって不慣れな環境であったが、熱心な学習が奏功し、徐々に慣れていき、当日までに操作の技術を習得するまでに至った。

4. 模擬結婚式の実施

(1) 模擬結婚式の実施

2025年度の模擬結婚式は、8月3日のオープンキャンパスの学料イベントとして、午前と午後の2回実施した。午前と午後の部ともに用意した約60席が満席となった。

模擬結婚式の進行は、841教室にてイベント来場者(列席者)に趣旨説明を行い、その後、(841教室に隣接する)AVスタジオの模擬結婚式会場へ誘導する。列席者への案内と会場への誘導には案内受付役の学生が対応した。

模擬結婚式は、前年からのシビルウェディングを変更し、シンプルな人前式の形式で実施した。来場者には入場の際にウェディングキャンパスへの彩色に参加を促した後、バージンロードを挟んだ配席にして誘導した。司会によるアナウンスに従い開会の辞で式が始まり、続いて新郎役学生が入場した。その後、新婦役の学生とその付き添い人が入場した。新郎新婦のブーケと花の交換の後、誓約、指輪交換が行われた。祝辞を経て、閉式の辞と進んだ。新郎新婦の退場の際には、バールシャワーに協力していただくことで、列席者にもイベントへ参加した気分を体感してもらえるようにした。

(2) 成果発表

9月7日のオープンキャンパスにおいて模擬結婚式の様子を編集した動画と展示物を紹介するとともに、参加学生によるプレゼンテーションを行い、学生の視点から本プロジェクトの概要、準備作業の詳細、参加した感想などを来場者に紹介した。来場者からは本プロジェクトに対して肯定的な評価を多くいただいた。

5. プロジェクトの効果

(1) 学びの効果

今年度もオープンキャンパス当日の来場者の列席のもとで模擬結婚式を開催したことから、緊張感のあるイベントとなり、参加学生にとっては貴重な経験の機会になったといえる。模擬結婚式においてプロデューサー役やディレクター役は新郎新婦や立会人の入退場のタイミング、場面転換等において常に全体の流れを見ながら適切なタイミングで指示を出すことが求められる。2025年度のプロデューサー、ディレクターの大半は昨年度の経験者であったこと、さらにメンバー全体の中にも昨年度の経験者がいたことから、スムーズな進行が行われた。このように本プロジェクトを5年間継続してきたことによって、参加学生

の中にノウハウが積み重ねられ、教育効果が発揮されたと考えられる。

本プロジェクトを通じた学びの深まりと成長の実感の様子は以下の参加学生のコメント⁴のとおりで、高校生時に本学のオープンキャンパスを通じてこの模擬結婚式に興味を持ったことやブライダル業界に強い関心を持っていること等について学生の理解が深まったことがうかがえる。

「高校 3 年生の時に見る側として参加し、学校の取り組みとして学生でコンセプトや衣装などすべてを決めて模擬結婚式という形で披露できることに魅力を感じてこの学校に入学し、プロジェクトにも参加しました。同学年の人数やトータル的人数、協力体制が変わってしまったことなどから全く分からない中で進めていく不安や大変さはありませんでしたが、自分にとって興味のある分野なので楽しく活動することができました。参加型セレモニーとして高校生に協力してもらったり小物にもこだわったことから参加者が笑顔で帰っていくのを見て達成感を味わいました。思い出に残る活動で真剣に取り組むことができたので参加して良かったです。」(3 年生)

「ブライダルプロジェクトに参加し、大学で学んできたホスピタリティを実際に提供する側・享受する側両方の体験をすることができた為、学びを深めることができました。また、学生主体で行う為、婚礼の知識だけでなく運営や音響・照明などの専門的な知識も身につけられたのでとても有意義な良い機会だったと思います。」(3 年生)

「去年までとは状況も条件も異なり、0 から手探りでの準備だったが、全員で協力して素敵な式にすることができたと思う。私は企画から本番までほぼ全ての内容に携わったが、具体的な内容がなかなか決められなかったり、当日もトラブルが起こったりと、結婚式の準備はこんなにも大変なものなのかと感じた。しかし、なんとか無事に本番を終えることができ、やり切ったという達成感を感じる事ができた。」(3 年生)

「前回参加した経験を活かすことができました。2 度目での企画班ではリーダーという視点から、全体的にブライダルプロジェクトに携わることができました。新郎新婦の意向に沿いながらコンセプトや挙式スタイルを決めるという、貴重な経験ができ楽しかったです。初めての音響係では、コンセプトにあわせ

⁴ 模擬結婚式終了後、参加学生 21 人にプロジェクトへの気づきについて自由回答形式でアンケートを行い、10 人から回答を得た。回答者の学年の内訳は 1 年生 1 人、2 年生 6 人、3 年生 3 人である。

ながら選曲しリハーサルを重ねました。当日はとても緊張しましたが、なかなか味わえない達成感に繋がるものでした。人数やスケジュールの関係上課題が残った点もあるので、来年改善しレベルアップしていきたいです。」(2年生)

「私は昨年と同様、広報班として参加させていただきました。プロジェクトを宣伝していく中で、チラシや学科公式インスタグラムなどの媒体を上手く活用することはもちろん、見通しを立てて準備を進めることが肝心だと今回強く実感しました。広報は、多くの人に本プロジェクトを知ってもらえるきっかけであるため、予定よりも一足早い行動を取ることが特に重要だと改めて思いました。また、メンバーに共有すること、連携することも広報素材を満足あるものに仕上げていくために大切だと思いました。結果、昨年発生した来場者数のばらつきを今回は多少改善できたため良かったです。」(2年生)

「昨年から引き続き参加しましたが、自分たちで一から結婚式をつくり上げるのは中々ない貴重な体験で参加して良かったと強く感じました。今回は人数の関係で役割を兼任することになりましたが、様々な仕事を担当することができ良い経験になりました。」(2年生)

「1年生の時にも参加させていただきましたが、改めて自分たちで1から作り上げるのは簡単ではないと痛感すると共に、色々考えるのは楽しかったです。本番は多くの高校生に見てもらえて頑張った甲斐がありました。「サムシングブルー」という言葉や意味、照明の当て方など勉強になることがたくさんありました。また、今回は広報としてインスタのストーリーやチラシを作りましたが、普段することがないので貴重な体験ができました。」(2年生)

「昨年に引き続き2回目の参加でした。昨年と比べると、自分から積極的に参加できた場面が多かったと感じています。模擬結婚式は一人ではつくることができないので、仲間と協力しながら準備を進められた点がとても良かったと思います。今回の経験を通して、協力して一つのものをつくり上げる大切さを改めて実感しました。」(2年生)

「去年と今年と2年連続で参加させていただきましたが、どちらも普通の大学では絶対に体験できないようなことを体験しました。自分たちでプロデュースして作り上げるこのブライダルプロジェクトは、自分の成長を感じ、本当に思い出に残るイベントだと感じました。」(2年生)

「ブライダルプロジェクトの参加は甲南女子大学に入学を決めた理由の一つ

でもあったので、今回プロジェクトに参加することができ、心から嬉しく思います。普段体験することのできない結婚式の空気感や式を作り上げるまでの過程。これらすべての経験から、自分たちで計画・実行する事の大変さ、仕事に対する責任感、情報共有の重要性を学ぶことができたと同時に、人の幸せを作る仕事の素晴らしさに気づくことができました。私は将来的にブライダル業界に就職したいと考えているので、今回のプロジェクトで得たコミュニケーション能力や知識を就職活動に繋げていきたいと思います。」(1年生)

学年や所属ゼミ、コース(分野)を超えて協力しながら一つの事業を成し遂げるという参加体験型の学びの機会は学生にとって大きな意義があり印象深い経験になったことがうかがえる。

(2) 情報発信

本プロジェクトに関する情報発信は前述のオープンキャンパスに加え、「学科インスタグラム」(5月8日、6月9日)でも準備段階から模擬結婚式当日の様子、プロジェクト報告会に至るまで随時情報発信を行った。また受験生用の『大学案内』にも関連情報が紹介される。

オープンキャンパスなどで本学科に関心を持つ高校生・受験生から本プロジェクトに対して肯定的な反響が多々見受けられることから、本学科の特色ある教育内容の一つとして今後も様々な機会に本プロジェクトの情報発信を試みたい。

6. 今後の展望

2021年度の開始から5回目の実施となったが、今年度は21人の学生が参加した(昨年度は37人)。前年度に引き続き継続参加することで、過去の経験の蓄積が十分に活かすことが可能となる。また、授業期間終了後の7月中旬から下旬に集中してリハーサルや物品制作に取り組む期間を確保すべきところ、調整に時間を要したことから、スムーズな運営とまでは言えなかった一因になったと考えられる。

本プロジェクトの次年度以降の改善点としては、新規参加メンバーにもプロジェクトの全体像がイメージできるように、プロジェクトの初期段階で過去のプロジェクトの映像等を用いて詳細を学ぶ事例研究会のような機会があるとさらに効果的と思われる。また、本プロジェクトと授業との連動性を高めることも重要であろう。その方策の一つとして、プロジェクト学習の授業選択科目化ということも提案したい。

2025年度は、新たな連携先との関係性を構築し、少数精鋭部隊で困難な状況を乗り越えることができた。今後も本プロジェクトに関連する学外企業や団体との連携を重ねることで、本プロジェクトを起点とした産学連携へつなげるなどの展開をはかりながら、本プロジェクトを特色ある教育プログラムの一としてさらに発展させていくことが望まれる。

7. 謝辞

本プロジェクトの運営に際し、日本語日本文化学科の先生方とコモンルーム、そして IT・管財課、入試課、広報課には多大なご支援をいただいた。また、兵庫大学現代ビジネス学部 石川夕起子教授には、運営面のみならず、基礎的な知識の習得や学生に対するメンタル面のケアなど、詳細にわたりご指導を賜った。記して感謝申し上げます。